

哲學研究

第四十五卷 第五册

第五百二十三號

昭和四十七年七月一日發行

藝術と言語……………吉岡健二郎

マックス・ウェーバーにおける

東洋哲學の社會學的考察(三) ……井守

歸納論理學と確率……………内井惣七

京都大學文學部内
京都哲學會
京都大學
京都市左京区
田本町
吉田區
文学部
国語学
文学研究室

京都哲學會規約

- 一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする
- 一、右の目的のために左の事業を行う
 - (一) 毎月一回會誌「哲學研究」を發行する
 - (二) 毎年公開講演會を開く
 - (三) 隨時研究會を開く
- 一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく
委員は京都大學文學部哲學科教官及び委員會において推薦したものに委嘱する
- 一、本會に賛助員若干名をおく 賛助員は會員の中から委員會が推薦する
- 一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けない 學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することができる
- 一、會員は會費として年三、六〇〇圓（會誌十二冊分を含む）を前納する
但し 二回又は三回に分納することもできる
- 一、會員は會誌の配布を受け會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる
- 一、本會は事務所を京都大學文學部内におく
- 一、規約の改正は委員會の決定による

京都哲學會役員

委員

石井大柿梶木清園武辻中野服藤松武本森山湯吉
 田島村崎山會水原内村田部澤尾藤吉口美田
 英祐雄好善太義公久又正令義良都
 祐勉昭一能三郎範一郎夫明夫海雄治男晶孫郎

ある。

(J)

注

(1) 拙稿「芸術学についての一考察」『哲学研究』五二〇号

(筆者 京都大学文学部〔美学美術史学〕助教授)

前号論文目次

近代哲学の根本構造…… 有 福 孝 岳 譯	ヘーゲル哲学における キリスト教の意義 …… W・バンネンベルク 中 埜 肇 譯	カントの動機論……… 若 松 謙
--------------------------	---	---------------------

次号論文予告

在りて在る者……… ——アウグスティヌスによる Exod. 3, 14 解釋—— 山 田 晶	バートランド・ラッセルの 記述理論形成の過程……… 野 本 和 幸
--	---

昭和四十七年六月二十五日印刷
昭和四十七年七月一日發行(毎月一回)

THE JOURNAL
OF
PHILOSOPHICAL STUDIES
THE TETSUGAKU KENKYU

Vol. XLV

July, 1972

No. 5

Die Kunst und die Sprache Kenjiro Yoshioka

Die soziologische Betrachtung Max Webers

über die asiatische Philosophy Mamoru Mukai

Inductive Logic and Probability Soshichi Uchii

Published Monthly

by

THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY

(The Kyoto Tetsugaku-Kai)

Kyoto University

Kyoto Japan

定
價
三
五
〇
圓